

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500277		
法人名	ケアハートガーデン株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	令和7年11月5日	評価結果市町村受理日	令和8年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフの資質の向上を目指し、研修に参加し、常にケアの向上を目指している。令和7年7月より、母体が、創生会グループに変更され、同年9月には施設長交代もあり変化があったが、今まで通り、センター方式を活用し、その人を知り、なじみの生活、利用者本位の個別性を重視したケアに取り組んでいる。地域のボランティアによるお菓子作りや、近所の方からの草刈り、清掃、野菜の提供等、交流を図っている。お誕生日会でリクエスト食を提供し喜ばれている。庭が広く、田んぼが近くにあり、四季の景色が綺麗で落ち着いて過ごせる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年7月に法人変更があり、運営方針も変化している。9月には管理者の交代もあったが、従来より働いている職員は、人手不足であっても同じサービスの提供を続け頑張っている。法人変更については家族の理解を得ており、アンケートには、職員の頑張りに感謝の言葉が寄せられている。内外の研修を積極的に実施、復命研修を実施して職員間で共有、日頃の支援に活かしている。記録についても利用者一人ひとりの行動を把握し詳しく記録している。事業所は市役所や消防署等、公共施設が近辺にあり、恵まれた環境ではあるが、それに甘んずることなく通報訓練や夜間も含めた避難訓練を積極的に実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回カンファレンス時に、スタッフが理念を唱和し、常に意識出来る様に実践を行っている理念に沿って、ご家族様との交流を行っている。	玄関、フロアーには職員や来訪者に目に付くように理念を掲示している。毎月のカンファレンスでも唱和しコミュニケーションを図りながら、意識強化に取り組んでいる。職員の姿勢が利用者にも伝わり、笑顔を引き出すきっかけになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々によるお菓子作りボランティアや草刈り、清掃ボランティアにお越し頂き交流を図っている。住宅街に施設があり、近隣の子供が大勢住んでおられる為、通勤時の車の運転に配慮を行った。挨拶は常に心がけている。	自治会には区費は払っているが、コロナ禍以降、中止となった行事や祭りの案内は途絶えている。事業所は住宅街に立地しており、子どもたちへの挨拶や見守り等には一役を担っている。高校や中学校の体験学習を受け入れており、今後も継続していくとしている。	地域との交流を復活できるよう、地元高校や中学校の体験学習の受け入れを継続している。さらに地域行事への参加、事業所行事に地域住民の参加を呼び掛けるなど、繋がりを深められる取り組みに期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、近隣住民の方や区長さん等へ運営状況を報告している。避難訓練や行事を見て頂いたり、写真などで日頃の活動を報告させて頂き、頂いた意見はサービス向上に活かすように努力している。	運営推進会議には区長、民生委員、行政、老人会長、家族等の参加を得て、活動状況の報告と意見交換を行なっている。議事録は、利用者の暮らしぶりが分かる運営便りの中に組み込み、行事やレクリエーション等の写真と共に、参加者や家族に配布している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行い、ご利用者の話を聞いて頂いている。市開催の研修会に参加し関係を築くようにしている。	地域との交流場所の提供について、行政に要望を出し、公民館の使用許可を得ることができている。行政の期待や応援の声もあり、事業承継後も、市町村と連携しながら、堅実な運営を行っていくとしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修会で不適切ケアの研修を行った。また、身体拘束を行わないよう普段のケアの中で、施錠や利用者本人の行動をさそぐ行為、言葉の制止を行わないよう、日々のケアの振り返り、見直しを行っている	身体拘束適正化委員会及び研修を実施している。センサーの種類や使用法についても学びながら、日々のケアを振り返り、反省と改善点を記録し、事故に繋がらないよう全職員に回覧し、内容を共有している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を実施し虐待について学ぶ機会を設けている。委員会を開催し内容を周知徹底している。	虐待防止委員会及び研修(動画)を定期的に実施し、不適切ケアを行っていないか話し合っている。ヒヤリハットがあった場合は、業務日誌にも記録している。チェックリストでの確認も実施し、虐待防止の周知徹底や重要事項の確認等、書類の整備にも取り組んでいる。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もいた。今後も必要性を見極め、活用できるように努めたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には早めの連絡を行い事前の説明や意見交換を行い、利用者本人様、ご家族様が納得された上で契約を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・外出を再開し、家族等より管理者や職員への要望を聞き、カンファレンスで周知している。	事業承継による法人変更はあったが、家族アンケートでは、職員の懸命な支援に感謝の言葉が多く信頼関係が築けている。毎月、利用者の写真入りの便りを送り、家族に喜ばれており、意見や要望も改善に繋げている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はカンファレンスに参加し、スタッフとの意見交換に努めたり、年2回個人面談を行ったり要望を聞いている。普段から話しやすい雰囲気にも努めている。行事提案などが活かされるようにしている。	日頃から、代表と管理者は現場にも入り、カンファレンスに参加している。職員とは話やすい関係性が築かれ、意見・要望を聞き取り職場環境の改善に繋げている。法人変更に関しては、職員の意見も把握している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	スタッフの日々の取り組みや実績、自己研鑽などを把握を行っている。職員が働きやすい様に意見の言える環境づくりを行い、シフトも配慮を行っている。	休憩時間や休憩場所の確保はできている。有給休暇や産休・育児休暇制度等も適切に取得できる。職員の急な欠員は職員が協力し合いながら、調整している。法人変更後は人員削減もあり、休日出勤もある。	記録(業務日誌、個別記録、ヒヤリハット等)の整理を行いながら利用者支援に取り組んでいる。人手不足で休日出勤など課題があり、処遇改善など、働きやすい職場環境作りに期待したい。
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回スタッフ全員で研修に取り組む時間を作っている。ケアの振り返りや、わからない事は、チームで考え、介護のスキルは違うが、誰でもわかりやすく実践出来る研修を心掛けている。	定期的に研修を実施し、職員のやる気アップを目指している。受講できなかった職員には動画研修も実施している。受講後はレポート提出を必須とし確認テストを行っている。現在、職員募集を行なっているが、難しい状況である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム部会に出席し、同業者と意見交換や情報収集をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築くことを第一とし、そのため傾聴や寄り添うことを大切にしよう指導している。一人の人間として関わり、共に暮らすもの同士の関係を築く努力をしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、ケアカンファで職員全員で利用者様の気持ちを探り、本人本位のケアができるよう努めている。入居時にご家族様にアセスメントシートの記入をしていただき、ご家族様の意向も汲み取れるようにしている。	利用者の思いや要望は、センター方式を活用して記録している。帰宅願望のある利用者も多く、自宅の雨戸を閉めてきたか心配する利用者には自宅の写真を撮って見せたり、ドライブで自宅付近を回るなど、利用者の思いに寄り添っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は、職員全員で現在のご本人の状態を見極め、必要な支援は何なのか考えるようにしている。ご家族、医師、看護師の意見も加えている。	医療機関とも連携し計画を策定している。丁寧なモニタリングを実施しカンファレンスで課題が見つかった場合は、改善ポイントについて、担当者が10日間リーダーとなり、観察しながら統一したケアの提供で改善に繋げている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスでは一人の方に絞り込み個別記録から介護計画の見直しを行っている。全員のケアを振り返り気づきを共有し、実践して取り組んでいる。	職員引継ぎ時間が決まっており、業務日誌とセンター方式のシートにて申し送りを行っている。利用者の様子や個別記録の情報を共有、ヒヤリハットを予測しながら、今後の支援方法やプランの見直しに活かし連動させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時には、車イス・ポータブル加湿器を利用。褥瘡予防マットのレンタルやムース職などの配慮を行っている。車イス利用者の外出・通院時には、車イス対応の社有車にて対応している。立ち上がりが難しい方は浴室用リフトを使用している。	利用者の状態や体調変化に伴い、必要となる福祉用具を無償で貸し出し、安全に過ごせるよう支援している。本人の買い物希望があれば付き添っている。また、地域住民からは入居相談もあり、今後、介護相談にも対応していくとしている。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園に桜を見にドライブへ出かけた。お誕生日会では郷土料理の五平餅を食べ昔の思い出を語って盛り上がった。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医を継続する方と、GHの協力医に変更される方がある。協力医は2週間ごとに往診があり、全員の方を診られ、24時間体制で相談や緊急対応を受けられるようになっている。	従前のかかりつけ医や専門医の場合は家族同伴での受診としている。協力医は月2回の往診があり、往診時はリーダーが利用者の情報をまとめ、看護師に説明している。24時間医療連携体制が取られ、相談や緊急対応が可能である。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医からの依頼と情報提供がされており、GHからも情報を提供し、常に病院関係者との信頼関係作りに努めている。	入院時には、サマリーを提供し、退院カンファレンスには管理者やリーダーが参加している。退院後も安定した生活ができるよう、医療機関や家族と連携し支援している。継続して医療行為が必要になる場合は関係者で相談している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた時期には、家族、医師の意見を聞きながら、意向確認を行い、次の施設、病院などの情報提供を行っている。面会時、月次報告書等で日頃の状況を伝え、おとずれる終末期前からの経過を伝えている。	契約時に、重度化や終末期に向けた支援や方針について説明している。重要事項に細かく説明してあり、医療的ケアが常時必要になった時などは、しかるべき機関を紹介している。看取り支援は行っていないが、看取りに関する研修は実施している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	折を見て、緊急時の初期対応、救急車要請時の動きの確認などを行っている。救命講師の資格を取得したスタッフによる救命講習を予定している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を全スタッフがを行い、年1回は消防署の職員の立会いで総合防災訓練を行って助言や指導を受けている。	避難訓練は年2回行い、そのうち1回は夜間想定で夜勤者中心に行っている。BCP・消防計画・設備点検・備蓄品を整備し、保管場所は全職員に周知している。昨年の改善目標であった、単独火災の一時避難所として、公民館の利用許可を得ることが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方の人間性や性格をきちんと把握し、職員で話し合いながらその方に合った声かけ・対応を考えつつ行っている。	利用者1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。全職員対象の接遇研修も行っている。排泄や入浴介助では、同性介助の希望があれば出来る限り対応している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で、その方の希望や好みを理解しようとしている。希望がある事は声かけし自ら行ってもらったり、嗜好品を選んでもらったりしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かをする時にはご本人に声をかけ、同意を得ながら、その方の一日のペースを大切にしながら過ごしていただくよう努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	湯せん食材を使用しているが、汁物の具材を切って頂いたり、毎日の食事が楽しみとなるよう支援している。行事食ではホットプレートを使いご自分で焼いたり目でも楽しめるよう工夫をしている。	食物アレルギー情報等は、入居時に家族・本人に確認している。主菜は湯煎食材を利用し、ご飯やみそ汁は事業所で準備している。差し入れの野菜を利用することもある。季節感のあるメニューを月1回程度提供し、おやつ作りは利用者も参加している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はその方に合った量を提供できるよう情報を共有しながら支援している。水分が摂れない方にはゼリーを作り提供する工夫をしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、その方の習慣もあり全員の行えないが夕食後は声掛けをし、皆さん口腔ケアを行ってから休んで頂いている。年一回口腔検診を行い治療につなげている。	口腔ケアは毎食後の習慣となっており、介助が必要な利用者は職員が支援している。夜間は事務所で義歯管理を行っている。年一回、市の「さわやか口腔検診」を受け、治療が必要な利用者には家族了解のもと、受診に繋げている。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人記録により排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。パット交換の際には、排泄後のタイミングを見計らって、さりげなく交換させて頂くようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決まっているが、その方に合った湯の量・温度と安心安全に入浴を楽しんで頂けるよう関わっている。入浴剤の使用やゆず湯、しょうぶ湯などを行っている。重度の方にはリフト付き浴槽へ順番を調整しながら入っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は居室にて休んで頂くようにしている。また、その方の体力や体調に合わせて昼寝の時間を設けたりしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の記録に常に目を通し、症状の変化が見受けられるようであれば、スタッフ同士の話し合いを持ち、変化の確認をしている。医師、ナースとも連携を取っている。入居時には意向を確認し、医師と相談し薬の減量や形状変更などを行っている。	誤薬防止として、朝・昼・夜と色分け、職員三人でチェック、飲み込むまでを確認している。処方変更後に体調急変が認められた際には、看護師に連絡、医師の指示を仰いでいる。便秘薬を服用している利用者も多く、排便の状態も確認し医師に報告している	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しんで出来る事や、得意や、興味のある事を、会話や日常生活の中で見つけ記録して情報共有を行っている。新聞を読んだり、アルコール提供等、なじみの生活を楽しんで頂いている。	入居前からの習慣や残存能力を維持できるよう、食器拭きや洗濯物たたみ等、役割を持って出来るよう支援している。また、101歳の女性を含めて、毎朝、新聞を読む人が複数名ある。祭りでは、ノンアルコールのビールも用意し楽しみに繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダでの日なたぼっこを日常的に行い外気に触れるよう支援している。施設での外出ドライブの他、ご家族とも時間を決めて外出できている。	コロナ禍以降、途絶えていた外出支援を少しずつ再開し、気候の良い日は外気浴をしたり、家族同伴での外出も行っている。自宅に帰りたいという利用者の気持ちに寄り添い、自宅付近までのドライブを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたい方がおられるため、スタッフや、ご家族様にも協力して頂き外出する機会を作っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時、いつでも電話ができるように支援している。携帯電話を持ち、好きな時に家族に電話して見える方もいる。年末にはご家族様の年賀状をスタッフがサポートして書いて投函した。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフは空調、照明などを調整する。温度、湿度計を設置して確認している。トイレも重なり合う時は衝突のないよう誘導を行っている。リビングには季節の飾りを作ったり、庭の花を摘んで飾ったり、季節感を感じていただけるようにしている。	フロアは陽当たりが良く、適切な温湿度管理も行っている。リビングから、四季折々の風景を眺めることができ、人の動きや季節の変化を感じることができる。職員と一緒に作った季節感のある折り紙や貼り絵を展示し、利用者の笑顔いっぱいの写真も飾っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の様々な場所にソファを設置し、好きな時に好きな場所で過ごしていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みのものを居室内で使用して頂くようにしている。写真や作成した作品を居室内に飾り、居心地の良い空間作りに努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレは、解り易く表示したり、夜間はトイレ内の電気を点灯したままで混乱を招かないようにし、自立支援を心掛けている。また、状況によりベッドセンサーを使用し転倒などがないように見守りも行っている。		